

# 「会見」をめぐるメディア表現から 中国の外交心理変化の一端を見る

## その2 事例調査及びその分析

裴 崢

中国の故・周恩来総理が生前、外賓に会見したことにに関して「周恩来总理今天接见了…」という新聞記事の原稿を書いた記者に次のように指摘したことがあるという。「不要用这个‘接见’，应该用‘会见’（“接見”を使うのではなく，“会見”を使うべきです）。「接見」によって，「上面」と「下面」を区別させるのは「…是一种封建观念。我是社会主义国家的总理，不管会见什么人，中国人还是外国人，都处在平等的地位（…一種の封建思想です。私は社会主義国家の総理です。どんな人と会見しても，中国人でも外国人でも，みな平等な地位にあるものです）」<sup>1)</sup>。新聞記事のありふれた1語に過ぎないが，周にとってはそこに反映された自己本位的な表現とも捉えうるものを見過ごせなかったのだろう。

09年12月，中国の習近平国家副主席が日本を訪問中，中国側より事前に要請していた天皇との会見が実施された。この会見は，日本の新聞には「天皇陛下は15日午前，皇居・宮殿『竹の間』で，中国の習近平国家副主席と会見した」，また，中国の新聞には「国家副主席习近平15日在北京日本皇宮会見了日本天皇明仁」とそれぞれ報道された。日本語では「…は…と会見した」とされ，「会見」は自動詞のようでもあり，ホスト及びゲストが動詞に対して共に主語となっていた。あるいは，「…は」が主語であり，「…と」は客語を指すと理解しても差支えない。

<sup>1)</sup> 胡祥鴻「周恩来怎樣改新聞稿？」「北京日報 2011. 6. 13」（「作家文摘」再引用）2011. 6. 28, 4面。

判読を容易にするため，脚注の中国語の簡体字を日本語の当用漢字に直している。

しかし、中国語の表現では、ゲストがホストに「会见」する形となっている。中国語の「会见」は動詞として使う時、一般に目的語を必要とする他動詞であるにもかかわらず、日本語の「会见」同様に自動詞的な働きもするのであろうか。また、訪問先のホストに会う公式な場なのに、まるで主客転倒のような表現では不自然だと筆者は感じ、この「会见」をめぐるメディア表現を通して、中国の外交心理変化を検討する必要があると考えた。

前回、筆者はこの検討に関する「その1」<sup>2)</sup>の小論でまず外交上、公式上よく使う中国語の「会见」、およびその同義語「接見」、また丁寧な「拜見・拜访・拜会」、さらに対照として日本語の「会见、接見、表敬訪問」に着目し、代表的と思われる辞書における各語彙の定義と用例の相違を確認して、「会见」の定義と用法を次のようにまとめた。

- ① 中国語の「会见」は基本的に名詞もしくは目的語をとまなう他動詞だが、副詞等が介在すると、目的語がなくても自動詞的になることもできる。だが、その場合「会见」はあくまでも現在形のままであり、「会见了」という完了形は使えない。一方、日本語の「会见」は、名詞及び自他動詞ではあるが、たとえば「親しく」というような修飾的な副詞がかかると、「会见する」という現在形は使えない時がある。「会见した」という完了形ではどの場合にも使える。
- ② 公式外交上において、明らかに身分の上下や主客の立場が違う場合、上位やホストの側から表現すれば「接見」すなわち「接見」、またその逆側であれば「拜見・拜访・拜会」つまり「表敬訪問」を使用することが両者の客観的な関係に鑑みてより適切である。同列あるいはそれほど違わない立場、地位、または公式外交上の場合も含めて、「会见」1語で間に合わせることもできるが、その際は通常「上位/ホスト 会见 下位/ゲスト」という語順でなければならない。日本語の場合は、「下位/ゲスト」が先

<sup>2)</sup> 裴崢「『会见』をめぐるメディア表現から中国の外交心理変化の一端を見る—その1『会见』の定義と使用パターン」(『小樽商科大学人文研究第120輯』)2010.11, P111-127.

頭に置かれても助詞の効果により意味を維持できるが、「…に会見」を「…と会見」というように助詞を換える必要がある。

上記の確認に基づき、「その1」では「会見」を中心に、「接見」、「拜見・拜访・拜会」及び日本語の「会見」「接見」「表敬訪問」の使用パターンをまとめた。

## 一 「人民日報」電子版による用語及びその事例の調査

### 1.1 用語使用による事例調査の方法

中国は、1978年の改革開放政策の推進とともに、ここ30数年来世界との積極的な交流を展開して来た。これまで諸外国との様々な行き来や関わり合い、特に外交儀礼上の数多い相互「会見」に関する報道について、その実態を中国の主要な新聞「人民日報」(People's Daily)を通して確認したい。

「人民日報」は1948年に創刊され、中国政府の機関紙とも言われている。「人民日報」では、外交上の「会見」、特に日本との相互訪問に具体的にどのように注目し、報道しているのか。また変化があったのか。もしあったら、その変化は何を意味するか。あるいはその変化から何かを読み取れるだろうか。

中国国内の本格的な改革開放政策の導入に先立って、中国は日本との国際関係では1972年に国交正常化し、78年に友好条約を結び、以来40年近く交流を深めて来た。したがって、まず「人民日報」の電子版を通して70年代の中日国交正常化実現前後以来、今日までの40年にわたる外交訪問の事例を抜き出す。「会見」及び「接見」、「拜見・拜访・拜会」という「会見」の同義語そして丁寧表現の事例データを用語別に集計し、その結果をグラフで示す。ただし、電子版の資料は2006年までのもののみが得られたため、データの集計によるグラフの表示は06年までとする。事例に関しては最近のものも例示することとするが、主として紙媒体の「人民日報海外版」に加えて中国国内発行の他の新聞の関連記事の一部も参照する。「人民日報海外版」は1985年に発行され、中国語の新聞として、海外在住の留学生、華人、華

僑向けに限らず、世界に中国を見せる窓口の一つともなっている。

電子版を利用して調査する際には上述の「会见」、「接見」、「拜見・拜访・拜会」を検索用語とし、下記の条件に従って集計した。集計の際には、さらに以下の2点に注意している。

- ① 膨大な使用量から有意義な事例を選別し比較検証するため、各用語をそれぞれ「日本」もしくは「中国」というキーワードと同時に検索することによって、中日関係の事例のなかでも、日本を客側とするものと中国を客側とするものに分けて抽出する。

たとえばキーワードが「日本」であれば、「毛沢東主席会见田中角栄総理大臣」(72.9.28)というように、目的語が日本側となる。「中国」のキーワードならば、「日本天皇会见中国駐日本大使…」(92.10.13)というように、中国側が目的語となる。ただし、中国の新聞であるため、当然に「英国女王会见温家宝総理…」(04.5.12)というような主体が中日以外の例も混入している。

しかし、この「キーワード」によって振り分けられた結果は、必ずしも日本側・中国側が各用語の対象として正確に反映されるとは限らない。「王震(中央軍事委員会常務委員)拜会藤山愛一郎」(84.4.13)という事例は、「中国」という一覽に紛れ込んでしまっている。しかし得られるデータの客観性を考慮し、また実際「間違い」はそう多くないため、現状の手法を採取する。

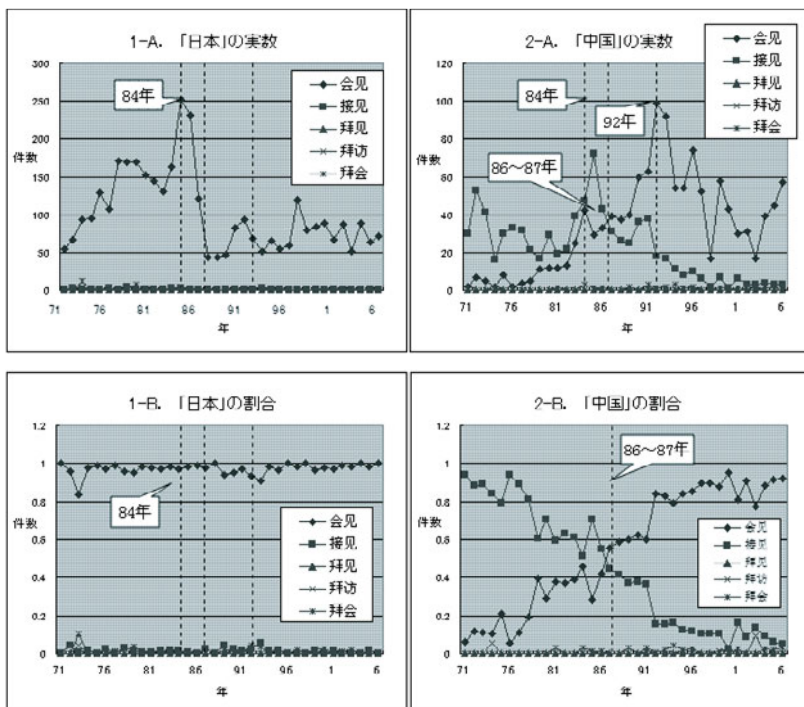
- ② 「日本」「中国」以外の事例は「その他」に類別する。

「その他」は、用語の対象がいずれも中国と日本以外の第三者となる例の筈であるが、「明仁天皇会见江総書記…」(92.4.8)のような中日関連の例も稀に混在している。これらの事例は「その他」のままとして扱う。

## 1.2 用語使用実数及び使用割合のグラフ表示

ここでは上記の条件によって集計した5用語、「会见」、「接見」、「拜見・拜访・拜会」ごとの合計件数、及び使用割合の分布をグラフに提示する。グラフ1-A、2-Aは、キーワードがそれぞれ「日本」と「中国」になる事例の

実数, グラフ 1-B, 2-B はそれらの実数を踏まえた使用割合の表示である。



各用語の使用実数及び使用割合の推移

グラフ 1-B, 2-B は, グラフ 1-A, 2-A の使用実数から得られた使用割合の分布と推移であるため, 後の分析を展開する際には主としてグラフ 1-B, 2-B を参照とする。

### 1.3 用語使用例の提示方法及びその表

続いて, 具体的な使用事例を検証しながら使用割合の分布と推移の背景及び意味を明らかにしたい。各用語の元データが膨大であるため, ここでは代表的と思われる一部を表 1 に取り上げる。「代表的」な事例の選出, 提示を

行うにあたり，次の5点に留意している。

- ① 「毛澤東主席会見田中角榮総理大臣」(72. 9. 28) のように和訳がなくても比較的理解しやすい事例であれば，中国語のまま挙げ，「毛沢東主席会见田中角荣総理大臣」というように，一部判読しにくい中国語の簡体字のみ日本語の当用漢字に直す。
- ② 事例の大多数は外交儀礼上の出来事に関する事実関係の報道記事であり，また標題が直接記事の一部となるものが少なくないため，出典では著者名も標題も敢えて注記しない。ただ，伝記や訪問記——たとえば「…拜访日本著名小説家水上勉先生」(91. 10. 15) など——のような事例については，「姚雪垠『訪日散記』」といったように著者名と標題を明記する。
- ③ 事例における各用語の実施される場所，また関係者それぞれの主客配置，身分，地位などを反映した使用語の適確さを判明しやすくするため，「江沢民（在釣魚台国賓館）会见明仁天皇和皇后…」(92. 10. 25) といったように現場や登場者の立場などを（ ）に加筆する。またたとえば「江主席接見我駐美人員（アメリカ駐在の中国関係者）」(97. 10. 30) などと和訳を（ ）に補足した箇所もある。
- ④ カタカナになっている国名や人名については，たとえば「美国（アメリカ）総統布什（ブッシュ）会见胡锦涛副主席…」(02. 5. 3) のように和訳するが，当該国名や人名が再掲される時にはこの作業を省略する。
- ⑤ グラフの統計は06年までであるが，事例については，最近のものも分析の対象とする。また取り上げている事例の後の（ ）内は，いずれも会見の日付ではなく，記事の日付となる。

表1 各用語の使用事例

「人民日報」People's Daily 電子版（人民日報社新聞信息等連合制作）

会見

	【日本】		
	期間	記事	日付等
1	71-80	毛沢東主席会见田中角荣総理大臣	72. 9. 28. 1面
2		毛沢東主席会见日本外務大臣大平正芳	74. 1. 6. 1面

	期間	記事	日付等
3	81-90	鄧小平（中央軍事委員会主席）会见日本前首相福田赳夫	81.11.3, 1面
4		在為期6天的訪問期間，趙紫陽將同日本首相鈴木善幸舉行會談，他還將会见日本天皇裕仁和日本各界朋友，…	82.6.1, 1面
5		趙紫陽總理…会见日本前首相田中角榮	82.6.2, 6面
6		趙總理会见了日本前首相三木武夫	82.6.3, 6面
7		趙總理会见了日本前首相福田赳夫	82.6.4, 6面
8		鄧小平会见中曾根…	84.3.26, 1面
9	91-00	江沢民（在釣魚台國賓館）会见明仁天皇和皇后…	92.10.25, 1面
10		橋本首相会见錢其琛外長（外務大臣）	96.4.2, 6面
11		江主席会见小淵惠三首相	99.7.10, 1面
12	01-06	江沢民主席（在中南海）会见日本首相小泉純一郎	01.10.9, 1面
13		日本明仁天皇会见吳邦国委員長 吳邦国会見小泉首相	03.9.6, 1面
14		胡錦濤（主席）会见日本首相安倍晋三	06.10.9, 1面
15	09	国家副主席習近平14日下午在東京会见了日本首相鳩山由紀夫	海外版, 09.12.15, 1面
16		国家副主席習近平15日在東京日本皇宮会见了日本天皇明仁	海外版, 09.12.16, 1面
17	10	国家主席胡錦濤27日在多倫多（トロント）会见日本首相菅直人	海外版, 10.6.28, 2面
	<b>【中国】</b>		
	期間	記事	日付等
18	71-80	大平首相会见李強（對外貿易）部長…	80.1.25, 6面
19	81-90	裕仁天皇会见趙總理	82.6.2, 1面
20		美国（アメリカ）總統里根（レーガン）在白宫会见中国國務委員兼外長吳學謙	83.10.13, 6面
21		蘇聯領導人戈爾巴喬夫（ゴルバチョフ）…会见中国外交部長錢其琛	88.12.3, 6面
22	91-00	日本天皇会见中国駐日本大使…	92.10.13, 6面
23		宮沢首相会见谷牧（國務院前副總理）…谷牧拜会日本宮沢首相	93.4.7, 6面
24		日本首相会见錢其琛	93.6.2, 6面
25		日本首相森喜朗…在官邸会见中国國務委員吳儀	00.7.29, 3面
26	01-06	德国（ドイツ）總統会见胡錦濤	01.11.12, 3面
27		美国總統布什（ブッシュ）会见胡錦濤副主席…	02.5.3, 1面
28		英国女王会见温家宝總理…	04.5.12, 1面
29		巴西（ブラジル）總理会见中国外長	06.8.7, 3面
30	10	日本天皇明仁1日在皇宮会见了中国國務院總理温家宝	「温家宝会见日本天皇明仁」海外版, 10.6.2, 1面
31		韓国總統李明博会见戴秉国	海外版, 10.11.29, 4面
32	11	美国總統奧巴馬（オバマ）…在華盛頓的白宫会见到訪的中国外交部長	新华网, 11.1.5
	<b>【その他】</b>		
	期間	記事	日付等
33	71-80	毛沢東主席会见美国前總統尼克松（ニクソン）和夫人	76.2.24, 1面
34		華国鋒（中央委員会主席）会见法国（フランス）總統	80.10.17, 1面
35	81-90	鄧小平会见美国副總統布什…	82.5.9, 1面
36		胡耀邦（中央委員会總書記）会见朝鮮勞動党友好參觀団	83.5.2, 1面

	期間	記事	日付等
37		日本天皇会见李鵬總理	89. 4. 14, 1 面
38	91-00	明仁天皇会见江総書記…	92. 4. 8, 1 面
39		日本明仁天皇…会见了中共中央政治局常委、国家副主席胡锦涛…	98. 4. 24, 1 面
40	10	国家主席胡锦涛9日在莫斯科（モスクワ）会见俄羅斯（ロシア）總統梅德韦傑夫（メドヴェージェフ）	海外版, 10. 5. 10, 1 面
41		國務院總理温家宝在紐約（ニューヨーク）会见美国總統奥巴马	海外版, 10. 9. 25, 1 面
42		胡锦涛（ソウルにおけるG20のサミット）会见韓国總統李明博	海外版, 10. 11. 12, 1 面

## 接見

【日本】			
期間	記事	日付等	
43	81-90	趙紫陽總理在訪日之前接見日本記者…	82. 5. 31, 6 面
44		鄧小平同志接見日本前首相大平正芳…	90. 1. 5, 6 面
45	91-00	叶利欽（エリツィン）接見日前首相中曾根…	92. 3. 3, 6 面
46		巴基斯坦（パキスタン）参謀長…接見日本駐巴大使	99. 10. 18, 6 面
【中国】			
期間	記事	日付等	
47	71-80	日本皇太子夫婦…接見中国駐日大使陳楚…	73. 7. 17, 5 面
48		田中首相接見我駐日大使陳楚	73. 9. 14, 4 面
49		福田首相接見我新任大使	77. 10. 3, 6 面
50		裕仁天皇大平首相分別接見鄧（鄧超）副委員長	79. 4. 10, 1 面
51	81-90	日本首相中曾根康弘…接見中国人民外交学会會長韓念龍一行…	85. 9. 4, 6 面
52		中央領導接見中国体育代表团	90. 9. 7, 1 面
53	91-00	江主席接見我駐美人員（アメリカ駐在の中国関係者）	97. 10. 30, 6 面
54	01-06	温家宝…接見中央国家機関党的工作會議代表…	03. 12. 26, 1 面
【その他】			
期間	記事	日付等	
55	91-00	克林頓在白宫接見美国女足（女子サッカーチーム）	99. 7. 21, 8 面
56		江泽民接見全国地方外事工作會議代表	00. 7. 18, 1 面

## 拜見

【日本】			
期間	記事	日付等	
	—		
【中国】			
期間	記事	日付等	
57	91-00	新娘子（新婦）要拜見各位亲朋好友…	楊万春等「令人煩惱の送礼風」 91. 6. 4, 5 面
58	71-80	阮文绍（ベトナムスポークスマン）拜見尼克松…	73. 4. 18, 4 面
59	71-80	（福田首相）对鄧小平副總理說，今天早上他拜見了天皇陛下…	78. 10. 27, 1 面



	【その他】		
	期間	記事	日付等
60	81-90	呉学謙（国務委員兼外務大臣）拜见了前菲律宾宾（フィリピン）外交部長…	85. 4. 20, 6面
61		我大使拜見孟加拉国（バングラデシュ）代總統	90. 12. 28, 6面
62	91-00	雅子和父母拜见了天皇和皇后…	93. 4. 13, 6面
63	01-06	…拜見萧老（作家、萧乾）…	楊家卿「萧乾的大家風範」03. 8. 23, 7面
64		胡錦濤接受十一世班禪（バンチェン）拜見	05. 2. 4, 1面

## 拜访

	【日本】		
	期間	記事	日付等
65	71-80	中日友好協会訪日代表团成員分別拜访日本一些大臣和各界人士	73. 4. 20, 6面
66		廖承志団長等拜访日本前首相石橋湛山	73. 4. 23, 5面
67		園田外相变請谷牧副總理一行 谷牧拜访福田前首相	79. 9. 7, 5面
68	91-00	基辛格（キシンジャー）拜访海部…	91. 9. 5, 6面
	【中国】		
	期間	記事	日付等
69	81-90	前年我（胡潔青，作家老舍の夫人）有機會去離東京不遠的千葉県拜访日本当今第一流的大画家東山魁夷先生	胡潔清「記齊白石大師…」84. 1. 10, 8面
70	91-00	…拜访日本著名小説家水上勉先生	姚雪垠「訪日散記」91. 10. 15, 8面
71		（日本）代表团…拜访中国人民对外友好協会…	99. 12. 17, 4面
	【その他】		
	期間	記事	日付等
72	71-80	楊（尚昆）主席拜访阿根廷（アルゼンチン）議會領導人	90. 5. 30, 4面
73	81-90	姬鹏飞（国務委員）拜访中曾根…	84. 5. 13, 6面
74		中国国務院副總理李鹏…拜访了日本國際貿易促進協會會長藤山愛一郎	84. 9. 1, 6面
75		趙紫陽拜访泰国前總理…	81. 2. 2, 6面
76	91-00	劉述卿（中国外交学会会長）拜访基辛格（キシンジャー）…	93. 10. 22, 6面
77	01-06	澳（オーストラリア）前總理…接受我大使拜访…	04. 7. 21, 3面

## 拜会

	【日本】		
	期間	記事	日付等
78	71-80	我駐日本大使拜会三木武夫副總理	73. 4. 9, 6面
79		陳楚大使拜会日本各政党和友好人士	73. 4. 17, 5面
80		廖承志団長拜会三木副首相	73. 4. 19, 6面
81		我大使拜会日本皇后	77. 10. 21, 5面
82		鄧小平副總理拜会福田首相 保利茂議長拜会鄧小平副總理	78. 10. 24, 2面
83	81-90	中国国務院副總理薄一波在東京拜会了日本首相鈴木善幸	82. 4. 15, 6面

	期間	記事	日付等
84		趙紫陽在訪日期間, 拜会了天皇陛下, …	82. 6. 3. 1 面
85	91-00	宋健(中国国務委員兼国家科委主任) 拜会日本天皇	93. 12. 2. 6 面
86		李鵬總理拜会日本天皇	97. 11. 13. 1 面
87		唐家璇(外務大臣) 拜会日本首相(森喜郎)	00. 5. 12. 6 面
	【中国】		
	期間	記事	日付等
88	71-79	訪華団領導成員拜会了北京市革委會…	77. 7. 24. 5 面
89	81-90	彭冲副委員長…拜会了日本衆議院議長福田, …拜会日本首相鈴木善幸	81. 11. 12. 6 面
90		王震(中央軍事委員会常務委員) 拜会藤山愛一郎	84. 4. 13. 6 面
91	91-00	…印(印度) 外長拜会李瑞環(全国政協) 主席	93. 12. 2. 6 面
	【その他】		
	期間	記事	日付等
92	01-06	朱鎔基(國務院總理) 拜会泰国国王…	01. 5. 25. 4 面
93		李鵬(全人大常務委員長) 拜会印度總統…	01. 1. 13. 1 面
94	71-80	喬冠華団長拜会联合国(国連) 秘書長等	77. 10. 21. 5 面
95		中共代表团拜会朝鮮労働党代表团	79. 11. 22. 5 面
96		黄華(國務院副總理兼外務大臣) 先后拜会法国總理和英国首相	80. 10. 3. 6 面
97	81-90	趙紫陽(總理) 拜会金日成	89. 4. 25. 1 面
98		錢其琛(外務大臣) 拜会联合国秘書長…	96. 9. 26. 6 面
99		胡锦涛拜会加纳(ガーナ) 總統	99. 1. 28. 1 面
100	01-06	唐家璇(在釣魚台) 拜会韓国總理	05. 6. 24. 4 面

## 二 その分析

### 2.1 使用割合の変わらない「拜見・拜访・拜会」

グラフ 1-B に示されるように、過去数十年間に当該 5 用語の目的語が「日本」というキーワードを含む場合は、使用割合にほとんど変化が見られない。一方、キーワードが「中国」であるグラフ 2-B を検証すると、「拜見・拜访・拜会」はグラフ 1-B と変わらず、揃って同じ使用割合を継続している。しかし、「会见」と「接見」は使用割合が入れ換わるほどの変化を見せており、変化が際立っている。言い換えれば、中国が「日本」に「拜見・拜访・拜会」するケースも、また日本が「中国」に「拜見・拜访・拜会」する場合も、使用割合の変移はなかったのである。

中国語の「拜見・拜访・拜会」は日本語の「表敬訪問」に相当し、「会见

地位高或輩分高の人（上位あるいは目上の人に会う）」<sup>3)</sup>、「多用于正式的外交，社交場合（多く正式な外交，社交の場に使う）」<sup>4)</sup>と定義されている。筆者が1977年から80年まで中国の地方外事機関に勤めていた頃，外交事では書面でも口頭でも，明らかな敬意・礼儀を示すこの「拜見・拜访・拜会」に類似する表現を常用していた。このため本調査の初期には，中米・中日外交の拡大に応じて，中国国内の改革開放政策を取り入れた初期段階（70，80年代）の対外相互訪問で，これらの丁寧な表現が多用されたが，その後礼儀重視より実務重視の「会見」という用語によって取って代わられたと推測していた。しかしグラフに示されたように，「拜見・拜访・拜会」の使用割合は終始低位安定しており，変化は認められなかった。外交業務の実務上では丁寧な表現を選択しても，報道では，メディアの中立あるいは客観性の要求によって，同様の配慮をする必要がなかったのかもしれない。つまり，確かに「会見」は急増しているが，キーワードが「中国」となる場合のみに限られており，そして連動して激減しているのは，キーワードが同じ「中国」となる方の「接見」のみなのである。

このように，いわばここ数十年「拜見・拜访・拜会」の使用割合が変わっていない結果がグラフ1-Bと2-Bによって明らかにされたことから，本論ではこの3語の比較検討をこれ以降一旦除外し，使用割合が対照的に変化した「会見」と「接見」に絞って変化の要因を解明していきたい。

## 2.2 使用割合の入れ替った「会見」と「接見」

目的語となるキーワードが「日本」，すなわち中国が「日本」に「会見」，「接見」する場合の報道表現を表したグラフ1-Bでは，その使用割合は，「会見」が100%，「接見」が0%と圧倒的な開きからスタートし，途中微動があっても，2用語はほぼ当初と同等の割合で，そのまま06年まで横ばいで推移した。

<sup>3)</sup> 『百度詞典』（<http://baike.baidu.com/view/754098.htm>）

<sup>4)</sup> 佟童君 梅立崇主編『漢語同義詞詞典』（商務印書館国際有限公司）2002，P464。

これに対してキーワードが「中国」、すなわち日本が「中国」に「会見」、「接見」するグラフ 2-B では、その使用割合は「会見」が6%、「接見」が94%と、グラフ 1-B とほぼ正反対の始まりとなっている。しかしその後、グラフ 1-B と異なり、グラフ 2-B の日本が「中国」に「会見」する表現のケースは上昇し続け、00年には96%を突破して、06年には92%に達し、反対に「接見」は06年には5%まで減少している。

キーワードが「日本」である場合、「会見」も「接見」もそれぞれの使用割合は、40年近くほとんど変化が認められない。これに対して、キーワードが「中国」である場合では、当初より「会見」は86ポイント増、「接見」は89ポイント減と劇的な逆転を呈していることが分かる。グラフ 2-B に反映されている対比は、筆者が本検討にあたって注目した問題意識——「会見」というメディア表現の通用化傾向——を客観的に裏付けている。ただ相対的に減少した「対義語」は、相手側に対する敬意と礼儀を現わす丁寧な「拜見・拜访・拜会」ではなく、先方より上位、あるいはホストの立場を覗かず「接見」であり、かつ下位、ゲストが「中国」である場合に限られている。

### 2.3 上位を受け入れる「接見」——下位の礼儀、謙虚を示す

ここでは「会見」及び「接見」の使用例を通して、使用割合が入れ替った背景を探りたい。「接見」を引き合いにして確認するのは「会見」の対照として検証する必要があるからである。

「会見」と「接見」の相違について、中国の辞書『現代漢語規範詞典』では次のように定義されている。「“会見”指双方级别对等的人会面（“会見”は双方対等の人と対面することを指し）、「接見”指级别高的官员会见级别低的（“接見”は上位の政府高官が下位の人に会うことを指す）<sup>5)</sup>。『広辞苑』では「地位の上の者が下の者に会う」のは一般に「“接見”」<sup>6)</sup>を使い、『類語

<sup>5)</sup> 『現代漢語規範詞典』第五版（外語教学与研究出版社 語文出版社）2010. 5, P669。

<sup>6)</sup> 新村出編『広辞苑』第六版（岩波書店）2008, P457。

新辞典』でも「接見」は「貴人が客を呼んで公式に面会すること」<sup>7)</sup>と定義している。本検討表1の用語使用事例の割合を見れば、「2.2」に触れたように、中国が「日本」に「接見」するのは、終始0%から5%の間で推移している。データ上の一貫した少なさは、ある意味で用語使用の自然性、客観性の反映と理解して差し支えないだろう。一方、日本が「中国」に「接見」するのは71年の94%から06年の5%まで減少している。この急降下においても、果たして両国の外交における相互訪問でも、実際に中日国交正常化初期は日本側の「上位」、「貴人」、あるいはホスト側での立場が多かったための必然的な成り行きであったのだろうか。

事実上、70年代前半の中国はいまだ文化大革命中であり、76年に文革が終結し、78年に改革開放の道を歩みだしたばかりであったため、中国側の訪問よりも来客の受け入れ、いわばホストの立場が多かった。中日国交正常化を目指す時期でもあり、日本からの訪問が少なくなかった。当時の毛沢東主席と日本政府高官との会見には、経歴あるいは年齢、またはホスト国であること等の地位以外の要素に鑑みれば、「接見」を使っても差し支えない。しかし、事例1, 2「毛沢東主席会見田中角栄総理大臣」(72. 9. 28), 「毛沢東主席会見日本外務大臣大平正芳」(74. 1. 6), というように、「接見」ではなく「会見」が使用された。

それに引き返え、事例47, 48, 49, 51「日本皇太子夫婦…接見中国駐日大使陳楚…」(73. 7. 17), 「田中首相接見我駐日大使…」(73. 9. 14), 「福田首相接見我新任大使」(77. 10. 3), 「日本首相中曾根康弘…接見中国人民外交学会会長…」(85. 9. 4)など、日本が中国に「接見」した使用例もしばしばあった。もちろんどの事例も「上位の政府高官が下位の人に会う」、「地位の上の者が下の者に会う」ことなので、問題ないといえる。しかし、後には同様な場面で、事例22, 24, 30「日本天皇会見中国駐日本大使…」(92. 10. 13), 「日本首相会見銭其琛」(93. 6. 2), 「日本天皇明仁…在皇宮会见了中国國務院総

<sup>7)</sup> 大野晋+浜西正人 角川晋『類語新辞典』第二十八刷(角川書店)1997, P649。

理温家宝」(10. 6. 2)のように、使用される語が「会見」に変わり、さらに本検討で取り上げた事例16「国家副主席習近平15日在東京日本皇宮会見了日本天皇明仁」(09. 12. 16)という表現にまで変わった。

キーワードが「中国」の使用例の実数は、71年には「拜見・拜访・拜会」を加えた5用語の合計32例の内、「会見」はわずか2例、「接見」は30例、他の3語は0であった。また「接見」について、71年から80年まで10年間キーワードが「日本」と「中国」それぞれの合計を比較すれば、「日本」は17例、「中国」は302例と後者は前者の18倍となっている。大多数は日本が中国に「接見」した例であり、その逆の例が統計上では一つも見当たらなかった。

80年代に入ってから、事例43, 44「趙紫陽總理在訪日之前接見日本記者…」(82. 5. 31), 「鄧小平同志接見日本前首相大平正芳…」(90. 1. 5)といったように、中国が日本に「接見」する使用例が稀に採用されたが、政府高官間の会見ではなく、記者団や前首相に会う場合に限っていた。他に、事例52, 53, 55「中央領導(責任者)接見中国体育代表團」(90. 9. 7), 「江主席接見我駐美人員(アメリカ駐在の中国関係者)」(97. 10. 30), 「克林頓(クリントン)在白宫接見美国女足(アメリカ女子サッカーチーム)」(99. 7. 21)などの例も見られ、いずれも自国内の代表や団体に会う場合であった。このように、キーワードが「中国」、つまり会見する主体が「日本」や「その他」である場合には「上位の政府高官が下位の人に会う」、「地位の上の者が下の者に会う」ときに「接見」が多く用いられており、そのため、相対的に「会見」の使用例が少ない結果となった。

その後、グラフ2-Bにある「接見」と「会見」の使用割合の乖離が、当初の94%対6%のスタートから、途中起伏を見せながら、84年には五分五分ほどに接近した。85年に「接見」は一旦71%の高さに復帰し、翌年すぐ両語の使用頻度が再度伯仲した後、00年には「接見」は2%まで下がり、「会見」は96%のピークを記録した。以来、両語使用割合の対比は二度と接近がなく、キーワードが「日本」であるグラフ1-Bに似た構図で並んでいる。

グラフ 2-B のこうした連動には、その時期の両国の交流、政治的な関係や動向なども反映されているかもしれない。それに関する検討はこの先に譲り、ここではさし当り中日間相互訪問などの年表を参考に付けておくことにする。

表 2 中日間相互訪問などの年表

年	月	事柄	中国		日本			
			国家主席	任期	首相	任期		
1972	9	田中角栄首相訪中、日中国交正常化（日中共同声明発表）	董必武	1972. 2. 24～1975. 1. 17 （主席代理として主席の権限を行使）	田中角栄	1972. 7. 7～1974. 12. 09		
1973	1	在中国日本国大使館開設						
	2	在日本中国大使館開設						
	3	陳楚初代在日本中国大使着任 小川平四郎在中国日本大使着任						
1974	4	中日友好協会訪日代表团（团长：廖承志会長）訪日	国家主席廃止期（1975年-1982年）		三木武夫	1974. 12. 9～1976. 12. 24		
	1	大平正芳外相訪中						
1975	9	在上海日本国総領事館開設						
1976	3	在大阪中国総領事館開設			朱德	1959. 4. 27～1976. 7. 6 （全国人民代表大会常務委員会委員長として元首格）	福田赳夫	1976. 12. 24～1978. 12. 7
1977	9	日中商標相互保護協定署名（北京）						
1978	8	日中平和友好条約署名（北京）			宋慶齡	1976. 7. 6～1978. 3. 5 （全国人民代表大会常務委員会筆頭副委員長として元首格）	大平正芳	1978. 12. 7～1980. 6. 12
	10	鄧小平副首相訪日（中国国家指導者の初訪日）						
1979	12	日中平和友好条約批准書交換（東京）			葉劍英	1978. 3. 5～1983. 6. 18 （全国人民代表大会常務委員会委員長として元首格）		
	9	谷牧副首相訪日						
	12	大平正芳首相訪中						
1980	4	余秋里副首相訪日			伊東正義	1980. 6. 12～1980. 7. 17 （内閣官房長官伊東が内閣総理大臣臨時代理）		
	7	華国鋒首相、故大平首相葬儀のため訪日						
1981	6	福田一衆議院議長訪中	中華人民共和国主席（1982年-現在）		鈴木善幸	1980. 7. 17～1982. 11. 27		
1982	5	趙紫陽首相訪日						
	9	鈴木善幸首相訪中						
1983	4	姚依林副首相訪日	李先念	1983. 6. 18～1988. 4. 8				
	11	胡耀邦総書記訪日、日中友好 21 世紀委員会設立を決定						

年	月	事柄	中国		日本	
			国家主席	任期	首相	任期
1984	3	中曽根康弘首相訪中	楊尚昆	1988. 4. 8~1993. 3. 27	※追加	
	8	李鵬副首相訪日				
	9	3000名の青年訪中団訪中				
1985	4	彭真全国人民代表大会常務委員長訪日				
	8	中曽根康弘首相が靖国神社に公式参拝				
1986	4	呉学謙外交部長訪日				
	11	中曽根康弘首相訪中				
1987	1	田紀雲副首相訪日			竹下登	1987. 11. 6~1989. 6. 3
1988	8	竹下登首相訪中				
1989	2	銭其シン外交部長、国家主席特使として大喪の礼参列			宇野宗佑	1989. 6. 3~1989. 8. 10
	4	李鵬首相訪日			海部俊樹	1989. 8. 10~1991. 11. 5
1990	5	宇野宗佑外相訪中				
	8	桜内義雄衆議院議長訪中				
1991	11	呉学謙副首相、政府代表として天皇陛下即位の礼出席				
	4	中山太郎外相訪中				
1992	6	銭其シン外交部長訪日				
	8	海部俊樹首相訪中				
1993	10	郷家華副首相訪日			宮澤喜一	1991. 11. 5~1993. 8. 9
	12	田紀雲副首相訪日				
1992	1	渡辺美智雄副首相兼外相訪中				
	4	江沢民総書記訪日				
1993	5	万里全人代常務委員長訪日				
	9	呉学謙副首相訪日			細川護熙	1993. 8. 9~1994. 4. 28
1993	10	天皇皇后両陛下御訪中				
	5	桜内義雄衆議院議長訪中	江沢民	1993. 3. 27~2003. 3. 15		
	後藤田正晴副首相兼法務大臣訪中					
1994		銭其シン外交部長訪日				
	1	羽田孜外相訪中				
1994	2	朱鎔基副首相訪日				
	3	細川護熙首相訪中				
1994	4	原文兵衛参議院議長訪中			羽田孜	1994. 4. 28~1994. 6. 30
	6	柿沢弘治外相訪中			村山富市	1994. 6. 30~1996. 1. 11
1994	8	土井たか子衆議院議長訪中				
	10	後藤田正晴副首相訪中				
		柴毅仁国家副主席訪日				



年	月	事柄	中国		日本		
			国家主席	任期	首相	任期	
1995	2	日中友好 21 世紀委員会第 10 回会議 (北京, 青島)					
	4	喬石全人代常務委員長訪日					
	5	村山富市首相訪中					
	8	村山富市首相, 終戦 50 周年にあたり首相談話を発表					
	11	江沢民国家主席, 錢其シン副首相兼外交部長訪日 (大阪, APEC)					
	12	河野洋平外相訪中					
	1996	3	錢其シン副首相兼外交部長訪日			橋本龍太郎	1996. 1. 11~1998. 7. 30
		3	池田行彦外相訪中				
	1997	9	橋本龍太郎首相訪中				
		11	李鵬首相訪日				
	1998	4	胡錦涛国家副主席訪日				
		8	高村正彦外相訪中			小淵恵三	1998. 7. 30~2000. 4. 5
11		江沢民国家主席訪日, 日中共同宣言等発出					
1999	7	小淵恵三首相訪中					
	12	李瑞環全国政治協商会議主席訪日					
2000	4	曾慶紅中央書記処書記, 組織部長, 中国共産党代表団を率いて訪日			森喜朗	2000. 4. 5~2001. 4. 26	
	5	唐家セン外交部長訪日					
		5000 名の日中文化観光交流使節団訪中					
	6	錢其シン副首相, 故小淵首相葬儀のため訪日					
	8	河野洋平外相訪中					
	10	朱鎔基首相訪日					
	2001	5	田中真紀子外相訪中			小泉純一郎	2001. 4. 26~2006. 9. 26
		10	小泉純一郎首相訪中				
2002	4	李鵬全人代委員長訪日, 日中国交正常化 30 周年「日本年」「中国年」開幕式参加					
	9	小泉純一郎首相訪中(海南・ボアオ・アジア・フォーラム) 川口順子外相訪中 日中国交正常化 30 周年記念式典, 13000 名の訪中団訪中					

年	月	事柄	中国		日本	
			国家主席	任期	首相	任期
2003	4	川口順子外相訪中	胡锦涛	2003. 3. 15～		
	8	福田康夫内閣官房長官訪中 李肇星外交部長訪日				
	9	呉邦国全人代常務委員長訪日				
2004	4	川口順子外相訪中				
	6	川口順子外相、李肇星外交部長会談（青島、ACD青島会合・日中韓三者委員会）				
	9	川口順子外相訪中（北京、ビジネス・サミット） 河野洋平衆議院議長訪中				
2005	4	町村信孝外相訪中				
	5	町村信孝外相、李肇星外交部長会談（京都、ASEM）				
2006					安倍晋三	2006. 9. 26～2007. 9. 26

注：主として主要高官による、中日両国間の行き来に絞り、国際会議参加等のため、第三国での対面や会談を取り上げていない。

【出典・引用】

wikipedia「中華人民共和国主席」「内閣総理大臣の一覧」

サーチナ（総合ガイド＞歴史・表＞日中現代表）<http://searchchina.ne.jp/history/j-c002.html>

概していえば、70～80年代には中国が対外的に門戸を開放したばかりであった故か、中国が会見者として相手側に会う際、会見地が中国であり、またたとえ立場上は上位であっても、「上位の政府高官が下位の人に会う」という立場よりも相手側に対する礼儀と敬意を示す姿勢を重んじ、「接見」ではなく、「双方対等」の「会见」を用いていた。自らが会見される先になると、今度は自国側の謙虚さから「上位」である相手側からの「接見」を受け入れていた。表現本来の定義による言語の使い分けではなく、表現を使用する側の心情的な姿勢及び立場などが報道に反映していた。それが、結局表現そのものを変遷に導いてしまったのではないかと推量される。

## 2.4 増化しつつある「会见」——実務性、抽象性、利便性

72年9月に中日国交が正常化され、翌年2月に在日本中国大使館が開設されて、3月に陳楚初代在日本中国大使が着任し、中国の使節団も日本を訪

れるようになった。大使の着任挨拶でも、訪日団の交流行事でも、中国が日本に「拜会」するとの表現が貫かれていた。事例 79「陳楚大使拜会日本各政党和友好人士」という記事には、「拜会…日本社会党委員長」、「拜会…日中友好協会（正統）中央総部」と「拜会…」(73. 4. 17) が計 12 回登場している。廖承志外務省顧問が率いた中日友好協会訪日代表団の訪日に際しては、事例 80「廖承志団長等拜会三木副首相…」(73. 4. 19) など、一つの記事には「拜会」が計 10 回顔を出した。他に事例 81「我大使拜会日本皇后」(77. 10. 21) などもある。

82 年の中日国交正常化 10 周年に際しての趙紫陽首相の訪日になると、関連の報道には「会見」、「接見」、「拜会」の細かい使い分けが見られた。訪問前には、事例 4「在為期 6 天的訪問期間，超紫陽將同日本首相鈴木善幸舉行會談，他還將會見日本天皇裕仁和日本各界朋友…（6 日間の訪問中，趙紫陽は日本の鈴木善幸首相と會談を行い，また裕仁天皇及び日本各界の友人に会うことになっている）」(82. 6. 1) というように、「日本天皇裕仁」の後に、「日本各界朋友」が続いているため、「会見」1 語のみで間に合わせている。日本訪問中には、事例 19「裕仁天皇會見趙總理」、「皇太子和常陸宮親王…同趙紫陽會見。會見後，天皇接見了趙紫陽的正式隨行人員」(82. 6. 2) というように、同じ「会見」であるが、主語が「裕仁天皇」と入れ替り、「隨行人員」に対しては「接見」したのである。「皇太子」等との場合では、前置詞でも並列詞でもある「同」によって他動詞の「会見」が自動詞的に扱われ、文法的には不自然ではあるが、表現上の配慮が感じられる。そして趙紫陽が主語の時には、事例 5, 84, 6, 7 のように報道されている。

「趙紫陽總理…會見日本前首相田中角榮」(82. 6. 2)、「趙紫陽…拜會了天皇陛下」(82. 6. 3)、「趙紫陽總理會見了日本前首相三木武夫」(82. 6. 3 6)、「趙總理會見了日本前首相福田赳夫」(82. 6. 4)。訪日前の発表は「会見」という 1 語で間に合わせたが、訪日期間中の報道では、天皇、過去の首相など、相手側の地位、身分などによって、「拜会」と「会見」を使い分けていた。

他にも、中国側が日本、あるいは他国の関係者を訪れる時、身分や立場に

よって相手側に「拜見」, 「拜访」, 「拜会」すなわち「表敬訪問」するという丁寧な使用例が多々あった。事例 73, 85, 87, 92「姫鵬飛（國務委員）拜访中曾根…」(84. 5. 13), 「李鵬總理拜会日本天皇」(97. 11. 13), 「唐家璇（外務大臣）拜会日本首相（森喜郎）」(00. 5. 12), 「朱鎔基（總理）拜会泰国国王…」(01. 5. 25) などである。また 78 年に鄧小平副首相が中国国家指導者として初訪日した際には, 事例 82「鄧小平副總理拜会福田首相」に続き, 「保利茂議長拜会鄧小平副總理」(78. 10. 24) となっていた。対面双方の身分によって, 前者では鄧小平副首相は相手側に「拜会」し, 後者では鄧小平副首相が「拜会」される立場となっていた。事例 60「呉学謙拜见了前菲律宾（フィリピン）外交部長…」(85. 4. 20) では, 現役の國務委員兼外務大臣の呉学謙が, 前フィリピン外務大臣に「拜見」したのは, 拜見地がフィリピンであったからである。さらに事例 100「唐家璇拜会韓国總理」(05. 6. 24) では, 拜会地は北京の釣魚台ではあるが, 相手側が韓国の国家元首であったからではないだろうか。このように中国が日本や他国に「表敬訪問」するとの表現は少なくなく, 05 年にもこれらの丁寧語が使われていた。

それ以降, 「会见」は次第に最も広く用いられ, かつ「“見”の敬語として使われている。重要人物との面会に多く使われ」<sup>8)</sup> ようになった。辞書の定義で定めた「地位の上の者が下の者に会う」という一般に「“接見”を使う場面でも, 「現在では, 公式な場合に」, 「会见」を「用いることが多い」<sup>9)</sup>。それは事例 15, 16, 41, 42「国家副主席習近平…在東京会见了日本首相鳩山由紀夫」(09. 12. 15), 「国家副主席習近平…在東京日本皇宮会见了日本天皇明仁」(09. 12. 16), 「國務院總理温家宝在紐約（ニューヨーク）会见美国總統奧巴馬（オバマ）」(10. 9. 25), 「胡錦涛（ソウルにおける G20 のサミット）会见韓国總統李明博」(10. 11. 12), などの報道に現れているようである。

<sup>8)</sup> 李嗣明「見——会见」『中国語のニュアンス まちがえやすい類義語・同義語』（東方書店）1981, P121。

<sup>9)</sup> 新村出編『広辞苑』第六版（岩波書店）2008, P457。

何故「会見」はこのように広く使用されるのだろうか。

「会見」は「接見」などにはない特質を持っている。「接見」は「上位の政府官が下位の人に会う」、「拜見・拜訪・拜会」は「上位あるいは目上の人に会う」、「多く正式な外交、社交の場に使う」というように、面会の実務性よりも、相互関係を示す面会の形式を表す。それに比べ、「会見」は「彼此相約而见面（相互約束した面会）」<sup>10</sup>、「あらかじめ場所を設定したうえで、相手に会って意見を述べたり相手の質問に答えたりすること」<sup>11</sup>というように、儀式にとどまらず、事務的あるいはどちらも兼ねる実質的な面会を意味する。5用語とも「会う」という意味であるが、「会見」だけは、最初から明らかに上位である方が下位に施す「接見」や、下位として上位に頂く「拜見・拜訪・拜会」とは異なり、動詞のみの状態では立場や身分の上下を持たない中立的、抽象的な表現である。動作の主体の二者があって、はじめて「会う」当事者双方の上下の立場・主客関係が生まれる。言い換えれば、「会見」は元来他の4用語より使用範囲も広く、面会者双方の立場・主客関係を暈す利便性を備えている。したがって、上に触れたように、過去に「接見」を使っていた同様の場面でも、今では「会見」となってしまう。70～80年代に相互関係の開閉や構築を進める儀式的な交流から、今日の更なる相互関係の促進を確かなものにしようとする実務的な交流へと変化していった外交上の交流は、形式より実質を求め、報道用語も花より団子という時の流れに合わせた必然の変化でもあろう。

言葉は意思疎通の道具であり、使用者自身の気持ちを代弁する。外交は双方向的な関係であり、自他について言及する時ほど、自国の立場を踏まえて表現すべきであろう。幸いに、全ての新聞で同じ傾向があるわけではない。他の新聞では、同じ「会見」を使っている例もある。外国メディアから中国政府の広報誌とも見られている「環球時報」で

<sup>10</sup> 佟童君 梅立崇主編『漢語同義詞詞典』（商務印書館国際有限公司）2002、P464。

<sup>11</sup> 柴田武 山田進編『類語大辞典』第4刷（Kodansha）2003、P442。

は、上で述べた習近平副主席の訪日について、「日本媒体関注習近平会见天皇」と題してはいるが、記事には「日本明仁天皇继位20年来已经在皇宫内先后23次会见中国高层领导人，但与中国国家副主席习近平15日的见面显得有些不同寻常（日本の明仁天皇が即位20年以来，皇宮で前後23回中国の高官と会見したが，中国国家副主席習近平との面会は少し普通ではないようだ）」(09.12.16)，と主客語の入れ替えや「会见」と「见面」の使い分けを行っていた。同じ「環球時報」では、一か月前オバマ大統領が天皇と皇后との対面について、「身材高大的（身長の高い）オバマが「拜会明仁天皇和皇后…」(09.11.16)，と「拜会」を採用していた。

また「参考消息」という新聞では、「15日上午，日本天皇在皇宫会见了…中国国家副主席习近平。1998年4月，天皇也曾会见了当时任国家副主席的胡锦涛」(09.12.16)と主客の立場を正確に報道している。それに、「日本破例接待中国领导人（日本例外中国指導者接待）」という見出しに、「接待」という表現を使い、客観的で適切に報道している。その一か月前、鳩山首相とオバマ大統領の会見については、「奥巴马见鳩山修补美日裂痕（奥巴马大統領が鳩山首相に会い，米日の裂け目を補う）」(09.11.14)というように、「奥巴马」が主語とされていても、ゲストなので、「会见」より単純に「会う」という意味の「見」が使用されている。この「見」の使いわけによって、主客転倒の不適切さを避け、出来事を客観的に報道することができ、また当時の日米の微妙な外交的な雰囲気も伝えられたのではないだろうか。

「人民日報海外版」でも異なる報道例がある。昨年6月温家宝首相の訪日の際、事例30のように、見出しは「温家宝会见日本天皇明仁」ではあるが、記事では「日本天皇明仁…会见了中国国务院总理温家宝」(10.6.2)となっている。

「会见」は、「多く外交の場での会見をさす」<sup>12)</sup>に対して、中国の検索エン

<sup>12)</sup> 編集相原茂『講談社中日辞典第三版』（講談社）2010，P739。

ジン最大手のオンライン辞書である「百度詞典」では、「身份高的人士会见身份低的」、「主人会见客人」とし、その逆に「身份低的人士会见身份高的人士」、「客人会见主人」という相反の場合では、「国际上一般称接见或拜会。…我国一般统称会见（国際的には一般に接見あるいは表敬訪問という。…我が国は一般に総じて会見）」<sup>13)</sup> というように、「会見」の通用に踏み込んで解釈している。しかし、上述した他の例などでは、「会見」は確かに「外交の場で」「多く」使われているのだから、その際には「会見」に関わる両者間の主客の位置づけが必要であろう。

### 三 まとめ

以上中国政府の機関紙、また代表的メディアでもある「人民日報」では、他国と「会う」外交上の交流における報道において、90年代までは「会見」や「接見」などの用語を使い分けていた。そこには改革開放の道を歩み出し、来客を受け入れ、自らも外訪し、世界を知り、他者に学び、相互交流を広めようという中国当時の社会構造の姿勢が反映していた。しかし、改革開放の道のりが確固たるものになるにつれて、以前の他者との相互関係を見極めるような儀礼的な自他表現から、次第に自己を中心においた実務的な表現に移り変わり、その結果として実務性、抽象性、利便性のきく「会見」の使用頻度増に繋がったのではないかと考えられる。

筆者は前回「その1」で、「会見」の使用割合の増加については、過去の形式張った儀式的な交流から、今日の実務的な交流への変遷と見て、決して悪い成り行きではないと認めながらも、一方でゲストの立場であればホストに敬意を示す基本的な儀礼も忘れてはならず、「会見」の主語・目的語の入れ違いにより表現上は主客転倒の結果となってしまっていたら残念であると指摘した。

<sup>13)</sup> 『百度詞典』 <http://baike.baidu.com/view/754098.htm>

本検討「その2」に関する記事例を精査すれば、上で指摘した、場合によって主客転倒となる可能性の背景がある程度明らかになる。極端なほど多かった「接見」が今は「会見」に大いに逆転され、使用例が元々稀であった「拜見」、「拜访」、「拜会」も今ではしばしば「会見」に譲っている。用語表現の変化に過ぎないかもしれないが、上位・下位、ホスト・ゲストなどの相互の立場よりも利便性を優先させたメディア報道の傾向が読み取れる。変化した用語表現の背後には、相互的、自他的な立場を見極める上での客観的な報道から、主観的な視点への移り変わりがあるのではないかと、とも思われる。

言葉は社会の構造とともに変化していく。「会見」という表現の増加は、政治文化の変化——中国が自身の発展により自信を深め、自他の相互関係の確認よりも自らの存在感を示す——と同調している。過去においては言葉の表現にも気を遣うほどに儀式的、儀礼的な外交姿勢であったが、今日においては実務を重視し、実質的、主観的な外交構築の姿勢を取ろうとしている。「儀式的」から「主動的」へと脱皮することは、同時に国際的な相互関係の促進に積極的に責任を果たそうとする努力とも見えよう。だからこそ、その努力を損なわないためにも、自他の関係を常に正確に位置付けて認識することの大切さに改めて注目したい。